

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター心愛つう		
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年10月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和6年9月20日		～ 令和6年10月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所から、小さなことまで連絡をくれるのでありがたい。	送迎時、LINE、電話、面談等で職員から、細かく連絡を入れるようにしている。	今後も、詳細なことにもついて、保護者に連絡が取れるよう工夫をしていく。
2	細かな健康や発達についての相談がしやすい。	日々の送迎時でのお話、LINE、電話、面談等で、小さなことでも聞けるよう、話しやすいようにしている。	日々の送迎時でのお話、LINE、電話、面談等で、日々の療育での様子だけでなく、家で抱えている課題など、話やすい環境や機会を多く持つようにする。
3			

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動している様子をもっと教えてほしい、写真などももっと提供してほしい。	日々の活動の様子が細かく保護者に伝わっていることが少なかった。活動プログラムの作成が、遅かったことやその説明までの機会が設けられなかったことが要因であると考えられる。	年間の、保護者との面談等で、活動プログラムや各種の取り組みについて、しっかり説明ができるよう計画的に取り組んでいく。参観週間、ペアレントプログラム、面談等で活動プログラムだけでなく、利用者さんの活動の様子や知っていたいたり、学習会なども取り入れていきたい。
2	災害についての取り組みで、保護者に周知されていることが少なかった。	災害発生の訓練について、保護者にしっかり伝えられなかった、また、保護者と共に災害時の取り組み考えていく機会が少なかった。災害マニュアルについては、確認がされているが保護者にしっかり伝わっていなかった。保護者と共に災害についての対応について考えていき機会がなかった。	災害発生の訓練について、保護者を巻き込んだ訓練を実施し、保護者と共に対応して取り組んでいきたい。
3	地域交流などの取り組みが少ない。	地域での取り組みが少ない。施設が移転してから、地域での交流までの取り組みまで考慮できなかった。できることから取り組めるようにしていきたい。	年度計画の中で、取り組みそうな、心愛との交流などやれそうところから計画をして取り組んでいく。令和7年度は、月1回の土曜活動日を設けることにする。土曜日での活動で、地域の方や保護者の交流、きょうだい同士の交流などの活動も取り入れていく。